

2021 年度 第 2 回但馬定住自立圏共生ビジョン懇談会（但馬分科会）

会議録（要旨）

日 時	2022 年 2 月 18 日（金） 但馬分科会 14:00 ～ 15:00
場 所	オンラインでの開催（豊岡市役所 3 階会議室ほか）
出席者	但馬分科会 9 名中 8 名
◎協議	
分科会長	協議事項の「(1) 第 3 次但馬定住自立圏共生ビジョンの策定について」事務局から説明をお願いします。
事務局	<説明> 【第 3 次共生ビジョン（案）の策定について】 【(1) 生活機能の強化に係る政策分野について】
分科会長	防災力の向上に係る事業費について養父市の事業費が減少となっています。要因は何でしょうか。
関係市町	各避難所や、場合によっては地域自治組織ごとに順次備蓄を進めており、2024 年までに大型の備蓄品の整備が一通り終わり、2025 年からは定期的な用品の更新に入ります。ここで事業費が少し落ち着くという予定で今事業を進めています。
分科会長 委員	それぞれの市町で事情がおりだと思えます。理解できました。 10 ページの人口 10 万人あたりの医師数ですが、現状値が 210 人で目標値が 252 人とあります。なかなか但馬地域では医師の確保が厳しい中で、医師の就業支度金貸与事業等を各市町に協力いただいています。今以上に医師の数が増えるという目標値はいいんですが、現実的にはこういう事業をやってもここまで見込めないのではないのでしょうか。先ほど兵庫県の目標値に合わせたという説明がありましたが、厳しいのではないかというのが私の意見です。
事務局	どの数値がいいかというのを考えて県の平均値に近づけようということになりました。どれくらいが実現可能な数値なのか病院組合とも再度考えさせていただければと思います。
分科会長 委員	目標値については再度調整するという事でお願いします。 2027 年度までには人口も減っていきますので、当然人口 10 万人あたりの医師数も必然的に下がっていく中で、目標値が今より上がるというのはなかなか厳しいのではないかと思います。
委員	有害鳥獣の件です。この計画については、現時点では妥当な数字が入っていると思っています。ただ、野生動物を相手にしていることですので、シカやイノシシが南但から北但へかなりの数が移動しているということをプロの職員の方々から意見を聞きました。今後は被害が養父市・南但から北のほうへ広がっていくのではないかと考えられます。その関係で、将来的には猟友会も北但の

ほうで活動して被害防止に努めなくてはならないのではないかと考えていますし、そういう動物の移動ということも考えていかないといけないと思います。

もう一つは、鳥インフルエンザと同じように、豚熱というイノシシを媒介とした病気が発生しています。昔は豚コレラと呼ばれていた病気ですが、これが北から南のほうへ下がってきてまして、京都府から今は丹波市まで豚熱に罹患した野生のイノシシが発見されています。この調子でいくと但馬へ入ってくるのも時間の問題ではないと言われていまして、養豚業などの畜産業でも被害が考えられるような状況になってくるのではないかと考えられます。

野生動物の被害というのはまだありまして、カワウが川に大量発生してアユの稚魚を食べてしまうということで、円山川の漁連から県のほうに要望があって、ハンターによる鶴の撲滅の計画もかなりの数が出ています。この鶴の被害についても先々問題になってくるのではないかと考えています。

もう一つお知らせですが、兵庫県では見つかっていなかったニホンカモシカが、去年の12月に猪名川町で発見されたというニュースがありました。山の中にいるということでハンターにも注意喚起が来ましたが、シカと一緒に生活しているような状況と思われそうですが、こちらは天然記念物で捕ってはいけない動物ですので、ハンターとしては困ったような状況になるのではないかと考えています。

事務局

養父市からのご意見は前回も伺っていましたが、朝来市からも、有害鳥獣の被害防止の取組みについては朝来市も関係していると言っていたいただきました。ですが、この協定自体が豊岡市と養父市の間だけになっているという状況がありますので、他の市町にも協定に入っていただくことも必要になってくると思っております。これには議会の議決が必要になりますので、すぐに加えるということはできませんが、そういう思いを持ってこの定住自立圏では進めていきたいと思っております。

豚熱やカワウの問題については、事業概要や成果について記載できないか検討したいと思っております。

委員

10ページの医療の関係です。前回の会議で、豊岡・出石・日高・朝来の4病院で令和2年度の患者負担分の未回収金が5,000万円ほどあったとありました。その負債を抱えているところの支援ということで、回収対策等が豊岡病院との連携の下でビジョンの中で策定があるのかどうかお聞きしたいです。

医療機関の先生の立場としては、患者が保険に入っていなからうが現金が無からうが、診るのが使命という重大な責務を負っていらっしゃると思いますので、そういうことが出るの仕方がないと思いますが、回収について豊岡病院との連携がなされるのか、そのことを確認させていただきます。

事務局

豊岡病院組合の担当部署には、前回そのような意見が出たということは伝えました。病院組合でしかるべき回収対策を行っているとのことで、これが定住自立圏の中で扱うべき案件かということ、取組内容としてはちょっと違うのではないかと考えていますので、今回は採用していないという状況です。

事務局 先ほどの説明で、17ページの「(ア) 観光の振興」の現状値についてです。2020年度の観光入込客数を2,025千人としています。おそらくこれはコロナの影響があると思いますので、調査時点を2019年度にして6,199千人としたほうが全体としてはいいのではないかと思います。いかがでしょうか。

分科会長 事務局からの説明について、ご意見をお聞かせください。

(特になし)

分科会長 それでは、次に「(2) 結びつきやネットワークの強化に係る政策分野」と「(3) 圏域マネジメント能力の強化に係る政策分野」を一括してご説明申し上げたいと思います。

事務局 <説明> 【(2) 結びつきやネットワークの強化に係る政策分野について】  
【(3) 圏域マネジメント能力の強化に係る政策分野について】

委員 21ページの「ア 地域公共交通」のところで、空港とか鉄道、バスの利用促進、あるいは利便性の向上といったことが書いてありますが、ある会で、但馬での人口減少が続いていく中で、利用促進や利便性向上の取り組み自体に限界があるのではないかというようなことが言われていました。昨日はJRのローカル線の見直し本格化ということで、県内では6区間が該当するうちの3区間が但馬の路線で、今後はバスへの転換や施設の自治体保有といったことも出てくるということが書かれていました。利用促進の取り組みというのは、維持していく上では非常に大きな柱ではあるのですが、やはり存続に向けて地域で維持していく取り組みというのは、例えばバスのような費用負担、あるいは(飛行機、鉄道、バスの)3つを3つともやっていくのではなくて、最適な公共交通を選択していく、そういった具体的な方策も考えていく必要があるのではないかと思います。今すぐどうこうというのではなくて、もしかしたら第4次での計画になるかもしれませんが、そういった部分も考えていく必要があるのではないかと思います。

事務局 第3次ではこのような取組内容としていますが、第4次では考えていきたいと思えます。

前回の会議や意見シートで、地域交通の問題について、公共交通が撤退したようなところで、マイカーを利用して地域の人々を送迎するといったことが、今後必要になってくるのではないかという提言を頂いています。これについては、豊岡市と養父市では自家用有償旅客運送制度に基づいて、実際に地域の方が市から貸与されている車で住民の方を送迎するということをされています。これも但馬のネットワークの中でできるかと言われれば、そこは難しいので今回は書いていませんが、そういう情報交換は行って、良い事例はどんどん取り入れてやっていくことも必要ではないかと思います。

分科会長 今の話というのは、我々が意見交換している具体的な取組内容のレベルより上の、協定内容にまで及ぶような内容ではないかと思いますし、引き続き聞かせていただいた意見を基にこれからも検討させていただきます。

委員

全体を通してのお願いとなってしまいますが、朝来市のマスタープラン関連の中で話が出ているのですが、アンケートで一番要望があるのが防災の関係や企業誘致、公共交通の分野です。私も今年度いろいろな会議に出席させていただいて個人的な意見として申し上げているのですが、同じような項目でも会議ごとにいろいろな議論がされています。ですので、この共生ビジョンについても情報の共有をしていただいて、一番良い方向に進めていただきますよう要望させていただきますので、よろしくお願いいたします。

事務局

この定住自立圏の担当課長会も定期的に開催していますし、情報共有には努めていきたいと思っています。

分科会長

最後に但馬県民局から、全体を通してご意見がありましたらお願いします。

県民局副局長

まず16ページの芸術文化観光専門職大学との連携のところですか。これは昨年の4月に開学して、但馬にとっても非常に貴重な資源となります。優秀な学生が集まってきていることはもちろん、たくさんの教員も集まってきていますので、積極的に連携を図っていく必要があると考えていますが、すでに各市町では様々な連携事業に取り組まれていると思います。教育分野というよりは地域振興の分野になるのではないかとも思いますが、いずれにしても大学と連携を図ることにより新たな視点や発想が生まれてくると思いますので、これはぜひ今後も積極的に進めていっていただきたいと思っています。

それから、先ほどもお話がありましたが、22ページ以降の地域公共交通の問題です。これは非常に切実な問題であると考えていまして、先ほどもありましたが、JRにおける地方の不採算路線の廃止や、すでに始まっていますが便数の削減という方向は避けられないと思っています。そうならないためにどうするかということは、一番はもう利用者を増やすということしかないんですね。人口減少が続く中で利用者を増やすというのはなかなか難しいという話もありましたが、まずは何よりも地域全体がもっと危機意識を持つということが必要だと思っています。当然但馬は車社会ですから、どこへ行くにしても車で移動するのですが、可能であればできる限り鉄道を利用する、不便であっても鉄道を利用して残していくという意識を、但馬地域全体で共有してもっと危機意識を持つ必要があると私は思っています。

県民局の来年度の施策でも、地道な施策ではありますが、「電車に乗ろう県民運動」という取組みも新たに始めようとしています。本当に地道なところから始めていくしかないと思っていまして、鉄道利用の働きかけというのは、今後とも厳しい中ではありますが並行して進めていく必要があると思います。もちろん、それとは別に新たな取組みも始めていく必要があるでしょうし、鉄道だけの問題ではなくて二次交通も含めて全体的・総合的に考えていかなければならない問題であって、非常に難しい課題であると認識しています。

いずれにしても但馬地域全体で取り組んでいかなければならない課題だと思っていますので、我々もぜひ協力して取り組んでいきたいと思っていますので、どうぞよろしくお願いいたします。

分科会長

今まで議論いただきました「(1) 第3次但馬定住自立圏共生ビジョンの策定について」ですが、委員の皆さんからいろいろな意見を出していただきました。その中には、前回の懇談会で出されて関係機関と協議をしたが、やはりビジョンに載せるのにはふさわしくないというものもあったわけですが、それらについては再度関係機関と調整をさせていただくことを条件に、今回説明のあったこの第3次ビジョンの案については、懇談会としては了解したと判断させていただいてよろしいでしょうか。

(特に異議なし)

分科会長

それでは、先ほど申しましたように、新たな意見等については関係機関と調整をするということと、もう一つレベルの高い大きな課題については、第4次になるのかはわかりませんが、きっちりと問題提起をさせていただきたいと思えます。

最後の「(2) スケジュール」について、事務局から説明をお願いします。

事務局

<説明> 3月上旬 連携市町で再確認

3月下旬 ビジョン策定・公表

分科会長

今のスケジュールについて、何か質問等がある方はどうぞ。

(特になし)

分科会長

以上で協議事項については終わらせていただきます。

「4 その他」ということで、皆さんのほうから何かありましたらご発言をお願いします。

(特になし)

分科会長

それでは、特にないようですので終わらせていただきます。本日はありがとうございました。